

紙版 ハコブネ×ブックス vol.19

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



おやすみの歌が消えて

ONLY CHILD.

作者 リアノン・ネイヴイン
翻訳者 越前敏弥
出版社 集英社
発行 2019年1月
ISBN 978-4087734959

review



六歳の少年ザックの言葉で語られる、マツキンリー小学校乱射事件の顛末。小学校を襲撃した男は銃を乱射し、十五人の児童が犠牲になりました。クロゼットに隠れたザックは難を逃れますが、三つ歳上の兄のアンデイはこの惨劇に巻き込まれて死亡します。警官に射殺された犯人は、学校の警備員であるチャリーの息子でした。怒りを募らせてチャリー夫妻を糾弾するザックの母親の運動は話題となり、マスコミを引き寄せます。悲しみと怒りで気持ちを塞がれた母親は、ザックに楽しいおやすみの歌を唄ってくれなくなりしました。顧みられなくなったザックは淋しさを抱えながらも、兄の死と家族の悲しみに向かい合い、やがてその無垢な訴えが、周囲の大人たちにも影響を与えていきます。家族の喪失と再生のプロセスが描かれていく重みのある物語です。

モッキンバード

Mockingbird.

作者 キャスリン・アースキン
翻訳者 ニキリンコ
出版社 明石書店
発行 2013年1月
ISBN 978-4750337500

review



ページニア・デア中等学校で起きた銃乱射事件は、生徒、教員を含む三名の犠牲者を出し、犯人であった生徒たちも射殺される痛ましい惨事となりました。小さな町に大きな傷あとを残した凄惨な事件。二年前にママをガンで亡くしていた小学生のケイトリンは、自分の良き理解者であった兄をこの事件で失い、悲しみでふさぎ込むパパとの二人だけの家族となつてしまっています。対人的な共感能力が弱いアスペルガー症候群であるケイトリンは、兄の理不尽な死に際しても、感情的な思考ロジックを持たないため、犯人たちに対しても怒りの感情を持ちえませんが、そんな特別な彼女にもまた、喪失感は訪れます。積極的に周囲と関係を結んでいくことで、失われたものを取り戻していくケイトリンの透徹した世界観に、試練を乗り越えられる人間の可能性を考えさせられます。

特集

銃を撃つ人 撃たれる人 そのまた家族の物語

国内児童文学作品では触れられないとがないテーマ。それが、自分や家族が銃犯罪に巻き込まれるシチュエーションを描いたものです。銃が身近にある社会では、その危険が顕在化し、家族の命が奪われることも、家族が誰かの命を奪うこともあり得ます。自分自身が銃を手にするかもしれないとは言えないです。銃の引き鉄がひかれるのは一瞬の衝動です。その圧倒的な破壊力によって永遠に取り返しがつかない事態を引き起こされます。悲しみと怒りが渦を巻き、喪失感だけが残される。そんな究極の状況の中でも、人が心を回復し、再生していく可能性を児童文学は描き出します。どうあがいても変わるのではない事実を前に、それでも、あがくことで人を悼み、自分も慰められるものかも知れません。どこへ向って歩いて行けば良いのかわからない時に、物語が地図になることもあります。その行き先に灯る希望を信じてください。



ぼくだけのぶちまけ日記

THE RELUCTANT JOURNAL OF HENRY K. LARSEN.

作者 スーザン・ニールセン
翻訳者 長友恵子
出版社 岩波書店
発行 2020年7月
ISBN 978-4001164220

review



執拗ないじめに耐えかねて、父親の猟銃を持ち出して同級生を射殺し、自分も死んだ兄のジェシー。このことで、弟のヘンリーと家族の生活は一変します。住んでいた田舎町から都会へと家族は引越越せざるをえなくなり、さらに母親は精神を病んで入院してしまいます。ヘンリーもまたカウンスリングを受けるのですが、事件のことを口にするのができず、心は乱れたままです。兄を失った悲しみと、普通の家族の生活をつたことで兄を責めたくなくなる気持ち。両親の失意や苦悩をわかりながらも、反抗的にふるまってしまう十三歳のヘンリーの心の葛藤が、カウンスラーからもらったノートに日記として綴られていきます。取り返しがつかないことを、どう取り返したいのか。傷ついた心を抱えた少年が自分を取り戻していく姿と家族の再生が描かれていきます。



エレベーター

Long way down.

作者 ジェイソン・レナルズ
翻訳者 青木千鶴
出版社 早川書房
発行 2019年8月
ISBN 978-4152098788

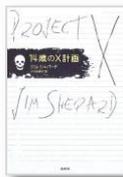
review



兄のショーンが射殺されたことで、悲しみに打ちひしがれる十五歳の少年ウィル。愛する人が殺されたなら、自分で犯人を見つけ出し復讐することが、薬の売人やギャンブルがはびこるこの町の掟でした。兄殺しの犯人を訪ねて殺すために、兄の引き出しから見つけた拳銃を手にとり、決意を胸に抱き、ウィルは自分の住むアパートメントの八階からエレベーターに乗りこみます。ところがエレベーターは各階で止まり、都度、誰かが乗りこんでます。それは、かつて銃で撃たれた死んだはずの人たち。ウィルにこれから何をするのかと問いかける、彼らの存在自体が雄弁に物語るものがあります。もし思いとどまることができれば復讐の連鎖は断ち切れ、未来は変わるかもしれない。散文詩による横書きの大胆なレイアウトでウィルの心象風景をヴィジュアル化する異色作です。

特集

人人撃つた物語
撃たれた家族



14歳のX計画 (ジム・シェパード) 白水社 2005年

学校で孤立し、周囲とうまくやれない十四歳の少年エドウィン。教師に反抗を繰り返して、敵対する生徒たちと罵りあう学校生活。このやっつけられない場所に対して、密かに報復計画をうちたてた彼は、銃による無差別殺人に邁進していきます。加害者側の立場から引き返せなくなっていく心理を描く本作など、さまざまな物語がここにあります。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.19

2021年4月1日発行 ● 発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作、諸々を受賞。



Twitter 連携しています。 @tomostretch